

東日本大震災とPage2012（第9報）

—G7のカラーマネージメントとジョブカードの展開—

国際印刷大学校 木下 堯博

2012年2月8日から開催されるPage 2012のOpen Eventで標題のテーマで報告会を開催する。カラー印刷画像の標準化として、日本ではジャパンカラーが中心となっているが、アメリカではG7のCMSの認証が広く認められている。

G7はIDEAlliance (International Digital Enterprise Alliance) が中心となり活動しているが、この連合体は印刷会社、印刷機材会社、出版社、広告会社、ソフト関連企業などが会員である。2007年にSWOPとGRACoLがオフセット印刷から始まり、G7ではオフセット印刷からデジタル印刷、各印刷方式へ対応してきている⁽²⁾。

G7の認証は世界(アメリカ、カナダ、アジア特に中国、韓国など)では687社の認証された企業があり、印刷企業以外にも機材メーカーが取得している。2011年11月18日にアメリカから訪韓していたIDEAllianceのMr. J. Fazzi氏と今後の展開について話し合った(写真1)。

一方、厚生労働省の所轄しているJob Cardは東京グラフィックサービス工業会が印刷界に導入するため2009年に地域モデル事業として「実践型人材養成システム」取り組み、3年目となる。①印刷営業、②製版、③DTP、④オフセット印刷、⑤製本の五業種のそれぞれのカリキュラムと学習結果の評価シートをまとめ、Off JT、OJTが合わせて6ヶ月間、新入社員が教育を受けられるシステムを構築して来た。

この制度は新入社員、採用企業、指導者(Off JT、OJT)の3者が相互にメリットがあり、印刷界の人材育成に大変有益である。さらに、カリキュラムに⑥デジタル印刷、⑦マネージメントなどの業種を追加する必要もあろう。

2011年12月1日、福島市で富士フイルムグラフィックシステムズ(株)のi-Visionのセミナーがあり、同社の全国巡回セミナーの最終であったが、いずれも標題に通じる内容であり、充実していた。福島県印刷工業組下山川章理事長らの参加もあり、盛況であった(写真2)。同理事長とは大震災の今後の対応について話合った。国際印刷大学校では福島民報の県内13ヶ所の線量計データにより、3月から11月までを解析しているが、福島市の平常値(0.04 μ SV)に戻るまでもう少し時間を必要とすることがわかった。



写真1
2011年11月18日、ソウル印刷センターでIDE AllianceのMr. Fazzi氏(左から3番目)と打合わせ



写真2
同年12月1日、福島ビューホテル富士フイルムグラフィックシステムズ(株)主催のi-Visionセミナー、中央が福島県印刷工業組下山川理事長、右は同井上専務理事

(2011年12月23日記)

* G7とJob Cardの展開 (Open Event, 2月8日 13時30分～15時、池袋サンシャイン文化会館7階701会議室、無料) ; 詳細、www.media-igu.com

私の印刷教育（3）

印刷教育研究会 野中 通敬*

前回は印刷教育のシラバスを示したが、今回からは講義内容について記すことにする。

(1) 印刷産業の現状については、ビデオ“ダビンチの予言”で、印刷が身の周りのあらゆる物に使われていること。紙への印刷物を見ることは脳に良いこと。高精細印刷や、インクジェット印刷による立体物の製作等を見せ、印刷への認識を深めてもらった。

(2) 印刷の原理 5版式では教科書「グラフィックアーツ」の第4章を使って、活版・樹脂凸版、平版・PS版、凹版（グラビア、エッチング、アクアチント）、孔版（スクリーン）、第7章 §6のノンインパクト印刷を使ってインクジェット（圧力パルス方式、サーマルジェット方式）、電子写真を講義した。

(3) 印刷の原理 5要素では、印刷物作製には、原則として、原稿、版、印刷機、印刷用紙、印刷インキが必要なことを述べ、印刷用紙等の項目はあとで詳しく講義することにした。

(4) 印刷システムⅠ 企画—版下作成—製版では「グラフィックアーツ」の第5章 原稿入稿から作品完成までの工程 を使って、企画ではサムネール、カラーカンパ等を説明し、版下作成では主としてDTPについて説明した。製版では、PostScriptやRIP、スキャナ、イメージセッター、DDCP、CTP等について講義した。

(5) 印刷システムⅡ 印刷—後加工では、枚葉印刷機と輪転印刷機、シート状とロール状の印刷用紙、折り、断裁、製本等について講義した。同時にビデオ「ビデオで学ぶ印刷の全て5巻を、講義の始め30分に1巻ずつ見せ、毎回内

容の要約と感想を提出させた。

(6) 印刷用紙Ⅰ 製造法、種類、規格では、上記教科書の第8章 印刷用紙 を使って、チップおよび機械パルプ、化学パルプ、半化学パルプの製造工程、紙料調整・抄紙工程、塗工工程を説明し、紙は、普通の紙と板紙に大別され、用途別に、情報、包装、衛生、その他に分類されること。規格としては、紙の寸法には、A系列とB系列があり、縦、横の比が $1:\sqrt{2}$ で、A倍判の大きさは $\sqrt{2}x^2=1m^2$ より x を算出し、B倍判の大きさは $\sqrt{2}x^2=1.5m^2$ より x を算出し、あとはその大きさの縦、横を適宜等分すればA4、B5等の寸法が計算できることを教えた。以下次回の機会に記すこととする。

*元東京工芸大学工学部

〒221-0065 横浜市神奈川区白楽15-3

Tel & Fax 045-433-5172

E-mail m-nonaka@22.netyou.jp



会津大学短大部